

報 告 書

○タイトル

豊中市市制施行 80 周年記念事業「選挙はじめまして」プレイベント講演会

○日時

平成 27 年（2015 年）10 月 12 日（月・祝日）14 時～15 時 30 分

○会場

大阪大学会館 アセンブリー・ホール（大阪大学豊中キャンパス内）

○内容

第 1 部 講演「新有権者へ期待すること～18 歳選挙権～」

模擬選挙推進ネットワーク事務局長 林 大介さん（東洋大学社会学部助教）

第 2 部 関係団体の発表「18 歳選挙権について」

豊中市明るい選挙推進協議会 副会長 梅村 晃さん

一般社団法人豊中青年会議所 副理事長 東 宏充さん

学生団体 ivote 関西大阪エリア 副代表 林 準也さん

豊中市選挙管理委員会事務局 事務局長 下平 恵子

○主催

豊中市選挙管理委員会、豊中市明るい選挙推進協議会、豊中市、豊中市教育委員会

○共催

大阪大学

○後援

一般社団法人豊中青年会議所、学生団体 ivote 関西

○参加者

55 人（市内 28、市外 21、不明 6）

○アンケート結果

32 人（回収率 58.2%）

〔内訳〕

1. 「講演会」の内容について

よくわかった 18	わかった 13	わからない点があった 0	わからなかった 0	（チェックなし 1）
わからない点等（自由記入）				
・統計データの意図もしっかりしていてよかった。				
・子どもは権利の主体として尊重される。主権者として、権利条約で保障されている意見表明権をいかに確かなものにしていくことの意味はよく理解できる。しかし、小・中学校での模擬選挙を実施できる力がどれだけ現場にあるだろうか。				
・政治の教育をどのように取り入れていくか。				
・なぜ 18 歳から選挙権を与えようと思っているのか。				
・テーマ設定の視点（実際の選挙を使わない模擬投票の場合）を聞いたかった。				
・教育現場での話が聞けてとてもよかった。				

2. 「講演会」や「18歳選挙権」等について（自由記入）

- ・時宜にかなった講演会だった。ただ、1時間の中に盛り込まれた要素が多すぎたかも知れない。
- ・教育機関との連携がポイントになる。
- ・18歳選挙権の実施については、その下の年代の子どもから意識改革をしていき実施が必要。
- ・学校では「政治」についての教育は環境的に難しい？
- ・意見表明をする力を子どもにつけていくことを、家庭・学校・地域で取り組んでいけるか、具体的な取組みが求められていると思う。元中学校教員だが、自分が模擬選挙をやるという気持ちにはなかなかない。
- ・教育なく選挙権を18歳にすることで正しい判断ができるのか。
- ・「場」の保障どうしていくか。
- ・子どもの主権者教育の話になった気がする。
- ・政治を身近に感じる教育が必要。
- ・幅広い層の方が来られていてよかった。団体の意見発表は時間が短かすぎた。
- ・投票率向上のために何をすべきか、若年層の政治への関心を高めることが大事なことは分かるが、今一つ実感がわからない。社会を良くするための政治について、子ども達を巻き込んで政治＝選挙への関心を高めていく、根づくり、土壌づくりが大切。
- ・身近な日常の事柄を投票も含め、議論して物事を決めていく行為が18歳の子どもたちの近い将来、仕事やクラブ活動の中でも活かされていくことが体感できれば。
- ・講演の対象を学生向けにするなら休日ではないだろうし、大人（社会人）向けにするなら阪大ではない。こうした機会を設定することは大賛成。もっと府教委、市教委と連携してほしい。教育監のラインが出席しないといけない。

3. その他

知った媒体 (33)	ポスター3	ちらし9	HP2	広報誌6	新聞等0	その他13 (JC、看板等)
性別(32)	女性7	男性25				
年齢(31)	17歳以下0	18歳1	19歳0	20歳代2	30歳代11	40歳代2
	50歳代6	60歳代6	70歳代3	80歳以上0		
所属団体等 (31)	学生1	保護者0	教職員1	ボランティア団体・NPO11	マスコミ0	その他18 (行政、選管等)